

2021年1月4日

各位

新年にあたっての社長メッセージ（要旨）について

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

当社（社長：大田 勝幸）は、本日、新年にあたり、当社社長 大田 勝幸のグループ社員に向けた動画メッセージを配信しましたので、要旨を下記の通りお知らせいたします。

記

昨年から続く新型コロナによる行動や価値観の変化は現在も進行中であり、将来の情勢の正確な予測は困難だが、脱炭素化とデジタル化が急速に進んでいくことは間違いない。当社グループ長期ビジョンの前提も「低炭素循環型社会の到来」「デジタル革命の進展」「ライフスタイルの変化」であり、新型コロナの影響があってもこの方向性には変わりはなく、むしろ取組みのスピードアップが必要である。

このような状況の中、当社グループが構造改革を進め、成長するために、皆さんに意識してほしいことを3点申し上げる。

1. 「変革への挑戦」

2次中計は、「長期ビジョンの実現に向けた変革推進の期間」と位置付けており、基盤事業の競争力強化と成長事業の育成・強化の両分野において変革を同時に進めていくことが必要である。昨年は、「OIREC事業の再構築」「知多製造所の製造機能停止」「カセロネス銅鉱山の権益追加取得」などのサプライチェーン改革・強靱化を進めたが、基盤事業の構造改革はあらゆる分野で大胆に行う必要がある。新規事業については、現在取り組んでいる「再生可能エネルギー・水素を含めたエネルギープラットフォーム事業」「モビリティ・ライフサポートサービス事業」「高付加価値の電子材料・素材事業」「上流事業の知見を活かした環境対応型事業」「廃プラ・金属リサイクルの推進」など、新たなビジネスに挑戦し成長に繋げていくことが必要である。

コロナ対応の中で、それまでの常識が通用しない世界、様々な制約がある世界であっても、思い切った変革や斬新な発想による商品やサービスを生み出すことで成長できるということ、ビジネスや働き方にも変革の余地がたくさんあるということを学んだ。少し前までは想像していなかった現実が目の前にある今こそ、過去の延長線上にない未来を切り拓くチャンスと捉え、失敗を恐れず変革に挑戦していこう。

2. 「スピードアップ」

昨年のホールディングスとENEOSの実質的統合以降、意思決定と業務遂行のスピードアップのために権限委譲を進めてきた。施策の効果は感じているが、更にスピードを上げる必要がある。そのた

めには、やらなくてもよいことの見極めとデジタルの力を最大限に利用することが重要だと考えている。グループ・部門横断でDXを推進する組織としてCDOオフィスを設置したが、一人ひとりがデジタルについての能力を向上させることも必要である。この1年で在宅勤務が浸透し、コミュニケーションのあり方やオフィスの意義、時間の使い方を考え直すきっかけになった。時間や場所に囚われずに仕事の出来る環境を整え、変革・創造に繋がるアイデアを生むための時間を創り出していく。

新しい働き方で生まれたアイデアもスピーディーに実行して初めて素晴らしい価値に繋がる。変化の激しい時代においてはスピードが持つ価値はとてつもなく大きくなっている。

3. 「成果へのこだわり」

働き方が変わっていく今こそ改めて自分の仕事の価値と成果を考える必要がある。変革を成し遂げるために最も重要なのは、実現しようとする強い意志と情熱である。変革に伴う困難を乗り越えるためには、「過去や常識に囚われず、とことん考えてみること」「果敢に実行し、その中身に魂を込めること」、そして「最後の一步をやり抜くこと」が必要である。長期ビジョンに向けた変革を実現すべく、結果を出すまでこだわりをもって最後までやり抜き、新しい会社、新しい未来を創っていこう。

最後に

ESG、SDGsが、企業経営や私たち一人ひとりの取組みの上で大きく注目されている。今回のコロナ禍で、どのような環境下でもエネルギーや素材の供給を通して経済や生活を支え続けることが、最大の使命であることを改めて認識した。将来にわたって、環境問題など変化する社会のニーズに応えながら、この使命を果たし続けていきたい。

歴史を振り返ってみると、困難な時代にこそ、新しい時代を創る原動力が生まれてきたとも言える。未来を決めるのは、今の私たちの行動である。創造と革新を通じて、私たち自身の成長、そして社会の発展と活力ある未来づくりに貢献していこう。

以上